



2022年11月8日

各位

会社名 尾家産業株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 尾家 啓二
(コード番号:7481 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役常務執行役員管理本部長 尾家 健太郎
(TEL06-6375-0158)

第2四半期(累計)業績予想と実績値の差異、 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

2022年8月8日に公表いたしました2023年3月期第2四半期累計期間業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。また、2023年3月期の通期業績予想について下記の通り修正することといたしましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 2023年3月期第2四半期(累計)業績予想値と実績値の差異(2022年4月1日～2022年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当り 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 43,000	百万円 480	百万円 500	百万円 340	円 銭 37.58
実績値(B)	44,479	658	678	573	63.35
増減額(B-A)	1,479	178	178	223	
増減率(%)	3.4	37.2	35.7	68.6	
(ご参考)前期実績 (2022年3月期 第2四半期)	百万円 31,361	百万円 △896	百万円 △755	百万円 △610	円 銭 △67.42

2. 2023年3月期通期業績予想値の修正(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当り 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 87,000	百万円 870	百万円 940	百万円 650	円 銭 71.84
今回修正予想(B)	90,000	1,200	1,240	790	87.31
増減額(B-A)	3,000	330	300	140	
増減率(%)	3.4	37.9	31.9	21.5	
(ご参考)前期実績 (2022年3月期)	百万円 70,602	百万円 △748	百万円 △560	百万円 △114	円 銭 △12.62

3. 修正の理由

2023年3月期第2四半期累計業績予想につきましては、当第1四半期累計業績を踏まえた上で見直しを行いました。当社の主要取引先であります外食産業の景況が想定していた以上に回復したこと、また営業活動を強化しているヘルスケアフード業態と中食業態が順調に伸長したこと、さらに業務効率化や経費削減の取組みにより、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益の実績値が計画を上回る結果となりました。

また、当下半期の見通しにつきましては、新型コロナウイルスの感染防止対策と経済活動の両立が浸透し、それに伴う水際対策の緩和により、インバウンド効果も一定程度見込まれる等、外食産業の経営環境は緩やかな回復が続くものの、円安加速による仕入価格の高騰、電気料金や物流費を中心とした経費の増加が見込まれる点も考慮し算出しております。

※上記の業績予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。

実際の業績は、今後の様々な要因によって予想と異なる可能性があります。

※ 第1四半期会計期間より、表示方法の変更として不動産賃貸収入及び不動産賃貸原価については「営業外収益」の「受取賃貸料」を「売上高」へ、「営業外費用」の「賃貸費用」を「売上原価」に計上する方法に変更いたしました。この表示方法の変更を反映させるため前第2四半期実績及び前事業年度の実績の組替えを行っております。

当該変更は、当社の事業所倉庫の有効活用を図り、安定的収益を得る目的として、倉庫業を主要事業の一つとして位置づけるため、当社定款の事業目的を変更したことに伴い、事業運営の実態をより適切に表示するために行ったものであります。

この結果、前第2四半期累計期間の業績において、「営業外収益」の「受取賃貸料」に表示していた83,718千円のうち倉庫業に係る収入72,371千円は「売上高」に、「営業外費用」の「賃貸費用」に表示していた59,869千円のうち倉庫業に係る費用55,400千円は「売上原価」の「不動産賃貸原価」に組替えております。

また、前事業年度につきましても、「営業外収益」の「受取賃貸料」に表示していた166,766千円のうち倉庫業に係る収入144,274千円は「売上高」に、「営業外費用」の「賃貸費用」に表示していた118,924千円のうち倉庫業に係る費用111,182千円は「売上原価」の「不動産賃貸原価」に組替えております。

以上